

教科書から見た新学習指導要領

三宅 健（東京書籍株式会社 理科編集部）

要約：学習指導要領の改訂が行われ、2022年度から改訂された教科書での授業が始まる。科目名は変わらず、学習内容の増減、配列が変わっただけのように見える新学習指導要領であるが、教科書を作る立場から見ると大きな変化があった。その変化について報告する。

1. はじめに

2022年度から実施となる学習指導要領の改訂のターゲットは高等学校といわれている。必要な資質・能力を「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に整理し、これらの力を育成するという観点で学習指導要領の内容や内容の取扱いが決められたと聞く。これは、学習指導要領の文言にも表れており、そこに示された内容をもとに作成していく教科書にも変化が必要となった。

2. 学習指導要領の文言のどこ変わったのか

学習内容や配列がどのように変わったのかという点が注目されることが多いが、教科書を作る立場で見ると、改訂された学習指導要領で一番変わったのは、学習内容の示し方(表現)である。これまで「観察実験」は、「目標」

表1. 学習指導要領の内容、内容の取扱いの文末表現

【内容】

知る	先生が情報を与えて、そのことを生徒が知る。
理解する	教師がある程度導くことによって、生徒が理解すること。
見いだして理解する	生徒自身が、関係性や規則性などに気づき、理解すること。
関連付けて理解する	生徒自身が、あることと他のあることを関連付けて、理解すること。
認識する	生徒自身が複数の理解する内容、複数の理解した内容から物事の本質や意味を理解すること。理解するよりも、ステージが一つ上の状態。

【内容の取扱い】

扱う	きちんと扱って指導するということ。
触れる	軽い扱いのこと。どの程度扱えばよいかは解説を見る。

や「内容の取扱い」などに示されていたが、今改訂では「内容」に示されるとともに、その「扱い方」も明記された。今回、新しく明記された「扱い方」の特徴的な表現が、「……を見いだして理解する」である。3つの柱のうち、主に「思考力・判断力・表現力等」を意識した表現である。地学基礎・地学は実験観察が行いにくい内容があることから、「資料に基づいて、……を見いだして理解する」という扱いが他科目より多い。また、実験観察以外の学習内容も同様に、学習の際の扱い方が明記された。いくつかある扱い方の表現の違いをまとめたのが表1である。

3. では教科書は……

ご存じの通り、教科書は教科書検定で合格しなければ使用されることはない。その教科書検定は、学習指導要領を基準として行われるが、基準として直接縛りをもつのは、「内容」と「内容の取扱い」である。つまり、今回の学習指導要領で新しく明記された「……を見いだして理解する」が示されている部分である。この部分に、「資料に基づき見いだす」と書かれていれば、教科書もそのように、「実験を行い見いだす」と書かれていれば、まず実験を行い、そこから気づき見いだす授業ができる内容・構成に教科書がなっていないと検定で意見がつくと考えられる。高等学校の教科書では、これまでにない構成である。

4. おわりに

地学基礎は専門外の先生がご指導されるケースも多いと伺う。かつ週2時間は変わらない。専門外の先生でも指導がしやすく、かつ、生徒が地学を学習するご利益を感じられるような教科書が新課程では求められている。

三宅 健（東京書籍株式会社 理科編集部）：

miyake at tokyo-shoseki.co.jp